

施策番号 1-2-1	施策名	安心して生み育てることができる子育て支援	基本目標	誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり		
			政策名	子育てしやすいまちづくり		
	主管課	子育て支援課	課長名	佐々木快治	内線	580
	施策関係課	住民生活課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
妊娠・出産、子育てに関する悩み・不安の解消と地域社会の理解を深めることにより、まち全体による子育て支援体制の充実を図ります。		町民	・妊娠・出産及び子育てに対する不安や悩みを解消する ・子育てに対する地域社会の理解を深める					子育ての支援体制が充実し、安心して生み育てることができる	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 出生数(H25～H30平均)	母子健康手帳交付数	人/年	172.0	148.2	135.6	170.0	170.0		
② 育児が楽しいと感じる親の割合	乳幼児健診アンケート	%	89.8	84.7	85.9	90.0	90.0		
③ 安心して子育てができる環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	63.7	67.2	65.7	65.0	65.0		
成果指標設定の考え方	①の成果指標は、「公立芽室病院で出産する町民の割合」(H20・21)、「合計特殊出生率」(H22-24)から、母子健康手帳交付数(H25-)に変更するとともに、平成28年度のシート作成時からは、当該年度を含む5か年平均の数に見直した。策定時に近い170人/年を目指す。②及び③はアンケート、調査結果を引き続き成果指標に設定。								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	474,542	453,208
人工数(業務量)	12,2811	11,1206

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①については全国的な傾向。 ②、③については微増・微減であり、特段の理由はないものとする。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①は、全国的な傾向であり、目標達成のハードルは高いと考えるが、本町において作成した「新たな定住対策」(平成26年度)や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成27年度)の事業推進を図りながら、目標達成を目指す。 ②、③については、子育て支援センターでのきめ細かい相談対応や、今年度から開始した「子育て世代包括支援センター」の充実を図ることで目標達成を目指す。
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	子育て支援センター運営事業 妊婦相談・支援事業 不妊治療費助成事業 子育ての木委員会開催事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	子育て支援施策については、役場内横断プロジェクトである「子育ての木委員会」の開催により、情報共有や課題解決を図ることができ、各事務事業の充実につながっている。特に昨年度は「子どもの貧困対策部会」を組織し、対応指針の策定や子どもの居場所づくり事業の協議を進めることができた。また本町の「発達支援システム」については、子育て支援施策のベースであり、「読み書き支援スクリーニング」(平成26年度～)の実施など、常に新たな取組にチャレンジしていることも、住民の評価につながっていると考える。		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>＜施策を取り巻く状況＞</p> <p>①子どもの貧困対策が全国的な問題として取り上げられ、その対応に各自治体が苦慮している。</p> <p>②乳幼児医療費の無償化競争が自治体間で繰り広げられてきている。</p> <p>＜今後の予測＞</p> <p>①何らかの貧困対応策を講じていく必要性が今後増してくると思われる。</p> <p>②乳幼児医療費助成の対象者拡大など、今後も無償化競争が拡大すると思われる。</p> <p>※町として、事業の優先順位や経済的支援の考え方を丁寧に説明していく必要がある。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<p>子どもの貧困対策について、芽室町独自のニーズ調査を求める意見が一部の議員から寄せられている。</p>

**5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)**

<p>課題① 子どもの貧困対策について具体的な対応が必要</p> <p>「子育ての木委員会子どもの貧困対策部会」でこれまで協議を重ねてきたが、課題を「学習支援」と「地域とのつながり」に整理し、北海道が実施している「子どもの居場所づくり推進事業」の活用も視野に入れて、事業開始の準備を進めていく。</p> <p>課題② 安心して子育てができる環境であると思う町民の割合減少</p> <p>発達支援システムによる乳幼児から就労期までの「一貫性」と「継続性」のある支援をベースに「子育て世代包括支援センター」を4月に設置したところであるが、新たな支援プランの作成や訪問型産後ケア事業への取組を充実させていく。</p>
---

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	子育て支援施策については、他自治体に先駆け新たな取組にチャレンジしており、前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成29年度から始めた包括支援センターについては、ニーズを把握しながらすすめてもらいたい。</li> <li>●成果指標③安心して子育てができる環境であると思う町民の割合が微減しているが、芽室町の子育て施策は充実している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 実現した</li> <li>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</li> <li>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</li> <li>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</li> <li>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</li> </ul>					

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	庁内評価と同じく前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居場所づくりは子どもが参加しやすく継続できる仕組みを考えてもらいたい。</li> <li>●居場所づくりのように親だけではなく、地域や社会で支える仕組みを進めてもらいたい。</li> <li>●所得があっても孤独を感じている子どもはいる。そういった子たちを地域で守っていきける環境であるかが重要だと思ふ。</li> <li>●子どもの居場所づくりは、行政だけで取り組むには限界がある。PTA、町内会、個人、団体など模索しながら周知を徹底し取り組むべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 実現した</li> <li>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</li> <li>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</li> <li>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</li> <li>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</li> </ul>					